



公益財団法人

つなぐいのち基金

令和4年度（2022年12月1日～2023年11月30日）活動報告会

2024.02.21

事務局
新森

副代表理事
清水

代表理事
鶴居 (ウイ)

事務局
今泉

常務理事
趙 (ジョー)



昨年の令和4年度も『最小限の組織体制』で、
『*寄付還元比率100%』を維持しながら児童支援実行団体をサポートしました。

*一般受取寄付金から児童支援活動に直接渡る予算の比率)



児童の健全な育成と自立に向けた中間支援活動を進めています。

つなぐ助成

: 小規模&新規活動団体を中心に、
小回りの効く少額助成を実施

長谷川基金助成

: 社会的養護施設を巣立つ児童&
若者に対する新生活支援を実施

令和4年度は上記2つの「助成事業」と
「活動組織運営強化伴走支援」を中心に活動を進めました。

■令和4年度の助成執行総額

： つなぐ助成 350万円
長谷川基金 150万円 相当（現物給付）

合計 **500万円 相当**

■助成執行額の推移

令和2年度 265万円
令和3年度 340万円
令和4年度 500万円
令和5年度 550万円～（計画値）



3年間で200%の増加しました。

■助成審査結果の総括

：本申請の数：51 団体（つなぐ助成＋長谷川基金助成）

採択団体数：17 団体（つなぐ助成＋長谷川基金助成）

* つなぐ助成

→全国の11団体を団体を選定。

支援する団体の所在地域は、宮城県、茨城県、東京都(3団体)、和歌山県、兵庫県、福岡県(2団体)、大分県、熊本県。

* 長谷川基金助成

6施設15名の子どもたち全員に生活家電セットをお贈りする事を決定。

支援する施設の所在地域は、東京都3団体の他に、神奈川県、千葉県、静岡県。

* その他

→児童支援団体の主な活動内容について、児童の居場所事業の他に、病児・障害児の支援事業、子どもの心理ケアの側面を持つ楽しい体験プログラム事業を優先的に選定いたしました。



①特定非営利活動法人 水梨かふえ（宮城県）

- ・ 活動概要： **障害児者福祉施設多機能型事業所** についての運営と地域活性化の取組。
- ・ 申請事業内容： 野菜や花、小物などを自分たちの手で作り、廃校校舎活用などでお世話になった地域の方々への感謝の交流。



②特定非営利活動法人 Nature Center Risen（東京都）*継続助成中

- ・活動概要：豊かな自然体験を基本とし、正しい科学的知識とのバランスを重視した「実践的環境教育」を提唱し、その実践によって持続可能な社会の実現に寄与することを目指す。
- ・申請事業内容：体験的な学習を通じて身近な食べられる野草の魅力に気づき、子ども達の食への関心を引き出す食育支援。



③特定非営利活動法人 サードプレイス (大阪府) ※申請時 (和歌山県)

- ・ 活動概要：障害や病気を持つ子どもたち、そして子どもを支えるお父さん、お母さん家族が、健やかに生きる社会を目指す。
- ・ 申請事業内容：出産で障害を負った子どもと親を支えるピアサポート体制整備。

④特定非営利活動法人 子どもNPOセンター福岡（福岡県）



- ・ 活動概要：『子どもフォーラム』を通じた、子どもの権利を当たり前にするための繋がりづくり。
- ・ 申請事業内容：より裾野広く**子どもの権利に携わる仲間を増やしていく機会**として「こどもフォーラムふくおか」を開催する。



⑤認定特定非営利活動法人 エスタスカーサ (福岡県)

・活動概要：主として子供、子育て中の人、障害者、高齢者とその家族に対して、交流の拠点を作ること、生活の様々な状況に応じた支援事業などを展開することにより地域での居場所を保障し、安心して暮らしていけるまちづくりに寄与することを目的として活動中。

・申請事業内容：地域の人たちや自然の畑や自然環境に触れる事ができる農業体験プログラムを開催し、精神健康からなる心身健康を改善し、さらに当たり前ではない体験をすることで自己肯定感を強くしていく。



⑥認定特定非営利活動法人 NEXTEP (熊本県)

・活動概要：障害や難病があるこどものたちが自宅や地域で暮らせる環境づくりにあたっては、「子どもたちの一生を支える」を目指して、**障害児の支援を行う小児在宅支援事業**に注力。不登校サポート、就労サポートといった既存事業に加えて、「**貧困**」「**虐待**」など、**地域の子どもたちを取り巻くさまざまな課題に取り組む。**

・申請事業内容：自由に体を動かすことが困難な重症心身障害児が、代替機器に興味を持つ為の活動の幅を広げる。

⑦特定非営利活動法人 セカンドリーグ茨城（茨城県） *継続助成中



・活動概要：茨城県全県のこども子育てに関する活動団体の中間支援業務、こどもの環境をより良くするために必要と考える間接支援、または直接支援。

・申請事業内容：コロナ禍で急増した**不登校児童・生徒の居場所**となる、子どもたち主体のフリースクール事業。



⑧ごちゃまぜラーニングセンター

(東京都) *継続助成中

- ・活動概要：不登校や発達特性を持った子を中心とした学習支援と居場所作り、親子支援。
- ・申請事業内容：子どもを真ん中に、だれでも学べるまちづくり。



【ウェークアップ】 youtube限定！「ダウン症の若者×お笑い」3組のネタ全編公開



⑨チーム フランポネ（東京都）

・活動概要：「お笑いを通じた社会課題の解決」をテーマにソーシャルビジネスを実践。

・申請事業内容：**ダウン症の方を対象にした漫才作成講座及び漫才大会D-1グランプリの実施。**

⑩特定非営利活動法人 子育て応援レストラン（大分県）



・活動概要：ひとり親家族を取り巻く環境の深刻化が子どもの成長過程に影響を与え、いじめにあっても核家族化により相談相手さえ見いだせずにいる子ども達に対して、地域と私たちができる教育、子育て、食育、地域、安全、環境、防災に関する事業を行うことによって、1人でも多くの笑顔をつなぎ合わせ、大分県のその振興に寄与することを目的とする。

・申請事業内容：ひとり親・困窮世帯・ハンディ世帯に特化した地域共生社会子育て支援事業（農業・クッキング・食支援）。



⑪パレット（兵庫県）*継続助成中

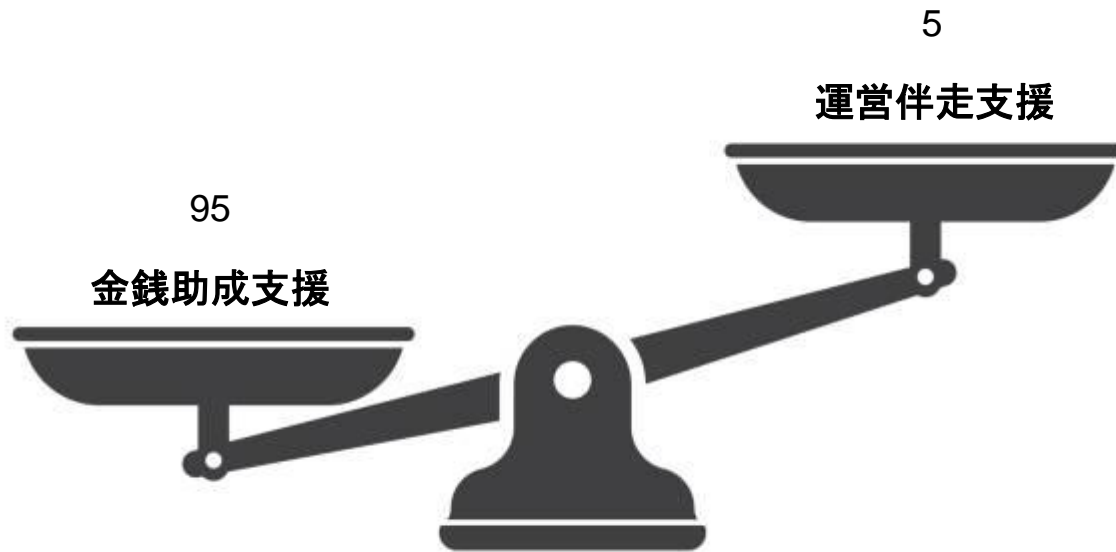
- ・活動概要：困りごとを抱えた子どもたちのための居場所づくり。
- ・申請事業内容：子どもの居場所の運営。主に発達障害や不登校など、困りごとを抱えた子ども達にも安心できる場所を提供。

■今年度の良かった点

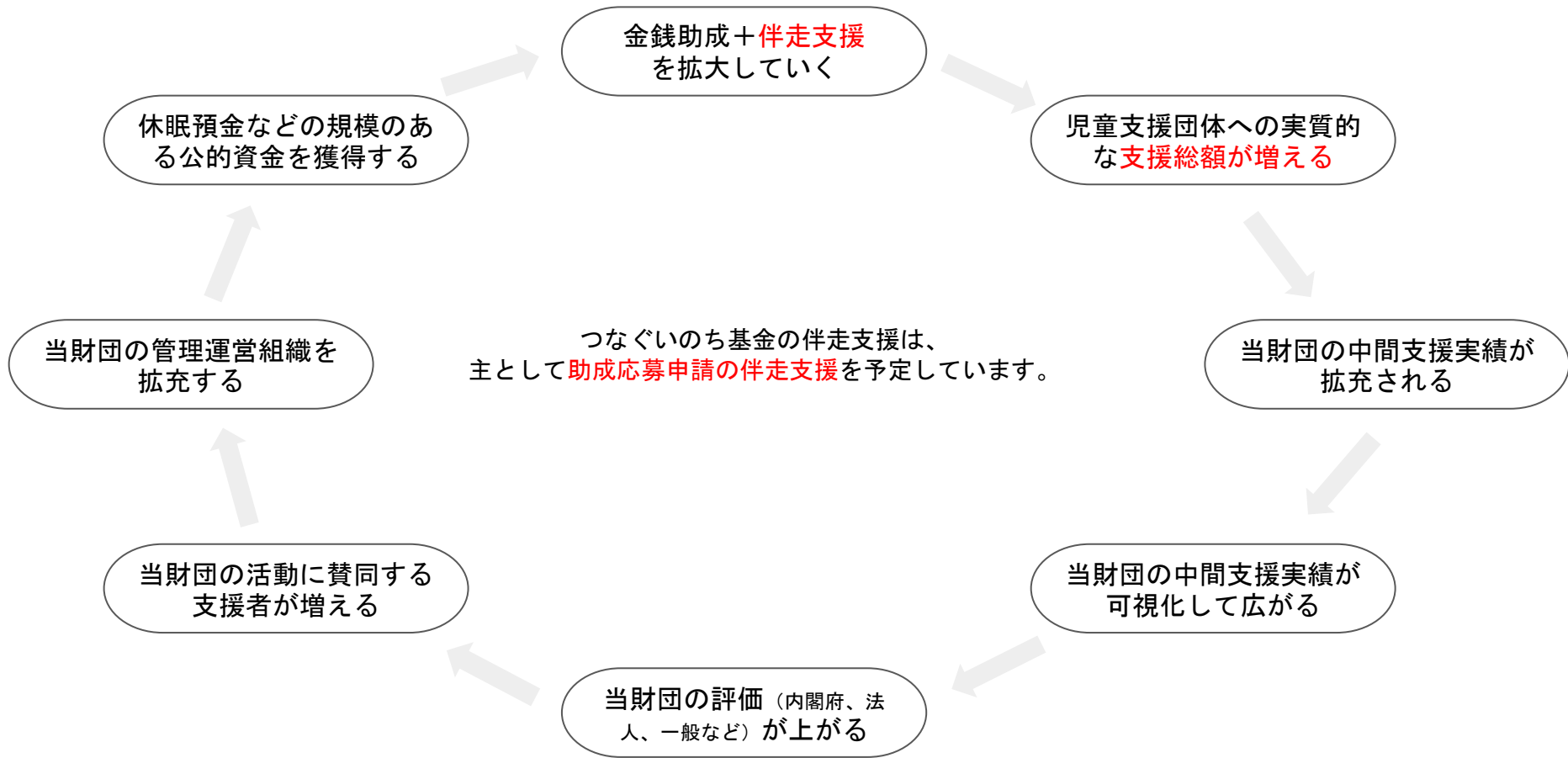
- ・ 助成執行額の継続的な増加傾向。
- ・ 広い地域に対する分散支援の継続維持。
- ・ 財団活動の‘見える化’に改善あり。

■今年度を経て思った課題

- ・ 社会に対する提供価値の総量が比較的に小さい。
- ・ 助成原資の確保が限定的である。
- ・ 運営事務局のキャパシティー拡充が困難。



資金配分・中間支援団体の支援とは？



*令和4年度の伴走支援事例（資金・資源獲得成功事例 / 年間約150万円相当）

2023 年 9 月 1 日

特定非営利活動法人
フードバンク埼玉 殿

(宛先) 板橋区長

子ども食堂事業者代表者職氏名
NPO板橋子ども食堂
中島 秀

「フードバンク利用案内書」に関する確認書

フードバンク埼玉の発行する「フードバンク利用案内書」に関し、次のことを確認しました。

令和5年度板橋区子ども食堂支援事業の(変更)交付申請について

- ① 「フードバンク利用案内書」の内容を理解したうえで、定められたルールに従います。
- ② 「フードバンク利用案内書」を受領し、施設内に保管します。
- ③ 「フードバンク利用案内書」の内容について、担当以外の関係者に対しても周知させます。
- ④ フードバンク埼玉が提唱するフードバンク活動について支持し、好意的に関わります。

標記の補助金について、次のとおり関係書類を添えて 交付 申請する。

記入日 : (西暦) 2023 年 08 月 16 日

住所 : 〒 174-0046
東京都板橋区蓮根2-21-11
団体名 : NPO板橋子ども食堂

記

食品支援者数 : 40 人 (支援対象者数) 1 人(スタッフ)
* 毎回約35組、40名ほど児童を支援しており、多いときで45名ほどになります。
非常勤ボランティアスタッフ1名が現地活動のサポートをしてくれています。
(その他、公益財団法人つなぐいのち基金から広報活動や組織運営を手伝って頂いています。)

1 区補助金申請額	金	1,200,000	円
	内訳		
	子ども食堂	480,000	円
	配食・宅食	720,000	円
	設備整備費等	0	円

連絡先 : [Redacted]

E-Mail : [Redacted]

代表者 : 中島 秀 (ひでし)





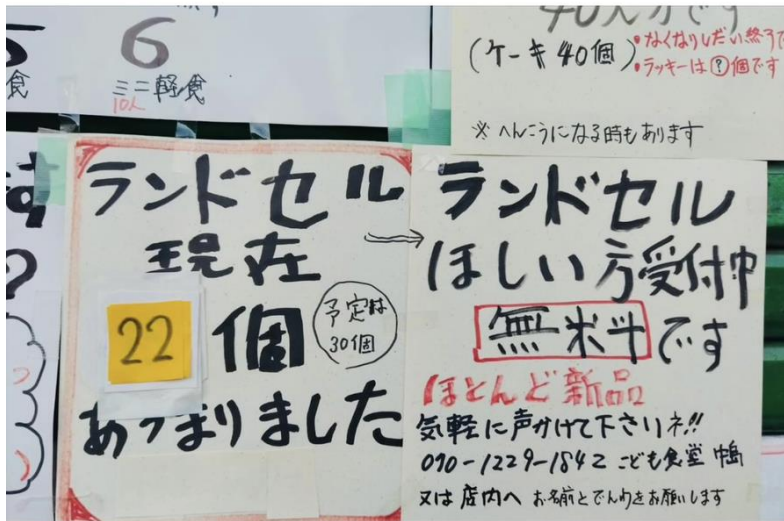


板橋こども食堂

...

4日 · 🌐

皆様のおかげで来年の新一年生に使ってもらうランドセルが本日時点で22個になりました。30個を目指して引き続き呼... もっと見る



板橋こども食堂

...

6日 · 🌐

板橋こども食堂の中島です。来年の新一年生たちに使ってもらうために皆様から中古のランドセルを寄贈して頂いていま... もっと見る



伴走支援事業について（当財団からの直接的な金銭助成以外の運営支援事業）

- i. 児童支援活動団体の事業運営資金調達伴走支援（助成応募申請のセミナーとガイドコンテンツ）
：当財団の助成審査会委員の協力の下、**助成応募申請書の効果的な書き方&アピール方法についてセミナーを開催。**

オンラインセミナーを動画コンテンツ化して無料配布すると共に、当財団からのアドバイス実施。

各児童支援活動団体が当財団以外の資金提供元を含んで事業運営資金獲得することを目指す。
初年度の取り組みによって**年間500万円相当の資金調達支援に繋げる**ことを目指す。

- ii. 支援先活動団体との共同イベント&事業運営

：当財団の活動を拡大し、児童支援活動団体とのコミュニケーション強化を図る予定

児童支援活動団体（児童養護施設、子ども食堂、青少年居場所）でのお汁粉配布イベントを予定（11月～）

児童居場所施設での落書きイベント定期開催（令和5年度／2024年～）

- iii. 法人現物寄付プラットフォームによる実行団体支援

：居場所事業を中心とした、児童支援活動団体への現物の寄付（寄贈）を繋げる事業をトライアル開始



児童の健全な育成と自立に向けた中間支援活動を進めています。

長谷川基金助成

：社会的養護施設を巣立つ児童 &
若者に対する新生活支援を実施

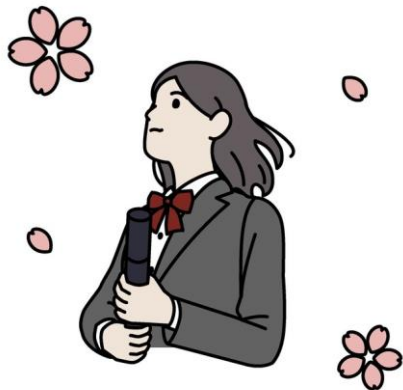
【長谷川基金】 社会的養護の施設を巣立つ子どもたちに電化製品を届けたい！

長谷川さんの想いで、新たな冠基金が創られました。

長谷川基金事業は、新たに社会的養護の施設を巣立つ子どもがより安心して新生活がスタートできるように生活に欠かせない家電製品や家具などを届ける事業を始めます。言わば、子どもたちの新たなスタートに応援の気持ちを込めたプレゼントを贈るプロジェクトです。

現在、当財団では、社会的養護の施設を巣立つ子どもを支援する目的に限定した予算として毎年100万円以上の資金を用意し、年に1回少なくとも10名から15名ほどの子どもたちに新生活のための家電製品をお届けすることに致しました。しかし全国で児童養護施設から対処する子どもたちは年間3,500人にも上ります。そのため、年間15名ほどの人数では十分な支援とはいえません。





Sさん（東京都、2022年春施設退所）

これからの生活に不安は多々ありますが、家電をいただくことができて少しホッとした気持ちです。一人立ちしなければいけない中で、大きな問題が一つ消えました。これからはひとり暮らしで全て自分一人でやらなければなりませんが、人への頼り方を学びつつ頑張っていきたいと思います。



Tさん（千葉県、2022年春施設退所）

卒園する前から学費や生活費の事が心配でアルバイトを頑張ってきましたが、新生活に必要なものは思っていたよりもとて多くてどうしようとなっていました。卒園後の経済的な不安に関しては気持ちが重くなるだけでどうしようもない気持ちでいましたが、生活家電がいただけ感激しました。不安もたくさんありますが、立派な社会人となれるよう一生懸命頑張ります。



長谷川 美栄 様・長谷川 正人 様
「長谷川基金」の提案者

この度、つなぐいのち基金に「長谷川基金」の設立を提案させていただきました長谷川美栄です。私たち夫婦には、重度の知的障がいを持つ娘がいます。娘は現在、グループホームで生活し、日中は、福祉作業所で箱折りなどの作業をしています。娘の子育てを通じて、知的障がい者は高校卒業後、ほとんどの人が就労するか、福祉サービスを利用するかの選択肢しかなく、進学や学びという選択肢がないことを知りました。

そこで私たちは娘のために、知的障がいを持つ若者たちの4年間の学びの場「ゆたかカレッジ」を立ち上げました。現在、東京、神奈川、埼玉、千葉、静岡の1都4県に9ヶ所を運営しており、420名の知的障がい者が社会的自立と経済的自立を目指して日々様々なことを体験し学んでいます。

このような活動を行う中で、私たちはこれまでに多くの児童養護施設で育った子どもたちとの出逢いがありました。そこで衝撃を受けたことは、児童養護施設から社会に巣立つにあたっての経済的な問題です。引越費用や家財道具の準備、当面の生活費など、住居を移すためには多額の費用がかかります。

これまで私たちは「ゆたかカレッジ」を通じて教育の面から未来ある子どもたちを応援してきました。そこで今後は生活の面からも若者たちを応援できないかと考える中で思い立ったことが新生活に必要な生活必需品のプレゼントです。

しかし、私たちのわずかばかりの寄付金では、残念ながら、支援を必要としている多くの若者たちには行き渡りません。そこで是非、クラウドファンディングを通じてより多くの皆様方のご支援をいただけますよう心よりお願い申し上げます。



公益財団法人

つなぐいのち基金

令和5年度（2023年12月1日～2024年11月30日）

助成事業のご案内

3月

例年より早い助成事業の案内開始

4月

助成応募の相談対応・助成応募開始

5月

助成応募の相談対応・助成応募開始

6月

助成応募の相談対応・助成応募開始

7月

助成応募締め切り

8月～

助成審査結果通知・契約・支払い



公益財団法人

つなぐいのち基金

活動報告会

参加団体のご紹介

ご参加誠にありがとうございました！

社会福祉法人 聖友ホーム 様

：東京都杉並区阿佐谷北で聖友乳児院（乳児院）と聖友学園（児童養護施設）を運営しています。乳児院では2歳までの子どもを対象に、児童養護施設では18歳までの子どもを対象に、保護者のさまざまな事情により家庭で養育することが困難になった子どもたちを預かり養育・養護しています。あわせて、退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことを目的とする施設です。

社会福祉法人 城山学園 様

：神奈川県足柄下郡湯河原町で城山学園（児童養護施設）を運営しています。相模湾や幕山を望む風光明媚な地にあります。周囲はみかん畑に囲まれ、のんびりとした、とても自然に恵まれた環境です。様々な家庭の事情でお預かりしている、3歳～18歳までの子どもたち約50名と、約30名の職員が生活しています。また、湯河原町内には城山学園のグループホーム指路(しろ)と蒼生(あお)があり、各6名の子どもたちと各3名の職員が地域のなかで生活をしています。

埼玉県指定・認定特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター 様

：日本に暮らす外国ルーツの子ども達が、等しく教育を受け、基本的な知識を身に付け、夢を持って成長していく事のできるように支援活動を行っています。無料の生活相談からフードバンクの運営までの生活支援や、無料の日本語教室、子ども達が楽しく日本の生活になれるようなプログラムである子どもクラブも継続して開催しています。その他に、「インフォメーションふじみの」発行(7か国語)・年4回「ハローフレンズ」発行するなど、活発な情報提供活動を行っています。

チーム フランポネ 様

：「お笑いを通じた社会課題の解決」をテーマにソーシャルビジネスを実践。ダウン症などの障害を抱える児童同士での漫才作成講座実施及び漫才大会開催をもって児童たちの成功体験を積み重ねています。

特定非営利活動法人 Nature Center Risen 様

：豊かな自然体験を基本とし、正しい科学的知識とのバランスを重視した「実践的環境教育」を提唱し、その実践によって持続可能な社会の実現に寄与することを目指しています。体験的な学習を通じて食べられる身近な野草の魅力に気づき、子ども達の食への関心を引き出す食育支援に取り組みました。

認定特定非営利活動法人NEXTEP 様

：障害や難病があるこどものたちが自宅や地域で暮らせる環境づくりにあたっては、「子どもたちの一生を支える」を目指して、障害児の支援を行う小児在宅支援事業に注力しています。不登校児童に対するサポート、就労に向けたサポートといった既存事業に加えて、「貧困」「虐待」など、地域のこどもたちを取り巻くさまざまな課題に取り組んでいます。

認定特定非営利活動法人エスタスカーサ 様

：主として子供、子育て中の人、障害者、高齢者とその家族に対して、交流の拠点を作ること、生活の様々な状況に応じた支援事業などを展開することにより地域での居場所を保障し、安心して暮らしていけるまちづくりに寄与することを目的として活動しています。具体的には、地域の人たちや自然の畑や自然環境に触れる事ができる農業体験プログラムを開催し、精神健康からなる心身健康を改善し、さらに当たり前ではない体験をすることで自己肯定感を強くしていく事を目的に活動しています。

特定非営利活動法人セカンドリーグ茨城 様

：茨城県全県のこども子育てに関する活動団体の中間支援業務。こどもの環境をより良くするために必要と考える子育て支援団体の支援活動、新規団体立ち上げ等のコンサルティング、こども食堂の立ち上げ支援、こども食堂団体の活動支援、教育に関する勉強会、困難な状況にある子どもたちへの支援、農林水産や地産地消および食に関する支援などを行っています。また、子育て家庭を軸に地域に住む人々が共に支え合い、情報交換や学び合う場の運営などを通し、子どもが自分らしく成長でき、子育て世代の養育者が安心して活躍できる環境を地域の中に生み出していくことを目的としています。

AITコンソーシアム 様

：筋ジストロフィーなどの進行性疾患を抱える難病児・者や様々な障がい児・者を中心とした相互支援と連携を推進することで誰もが住みやすい環境のようなコミュニティ形成と社会システム構築を目指す団体の集まりです。

特定非営利活動法人サードプレイス 様

：サードプレイスは、子どもたちにとっての居場所の必要性を周知し、人材を育成し活動者を増やしていくことで、子どもたちが早い段階で大人と出会い適切なサポートが受けられる地域を作っていくこと目的としています。横浜市鶴見区の子どもたちが自分でアクセスできる生活圏に、少なくとも1か所、サードプレイスを作ることを提案しています。